



Sun Fire™ V215 および V245 サーバー設置マニュアル

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 819-6879-10
2006 年 9 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun Fire、OpenBoot は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Fire V215 and V245 Servers Installation Guide
Part No: 819-3037-10
Revision A



目次

はじめに vii

1. 設置の準備 1

必要な工具 1

出荷キットの内容一覧 1

設置の概要 2

安全のための注意事項 4

2. Sun Fire V215 および V245 サーバーの設置 5

サーバーのラックへの取り付け 5

▼ スライドレール構成部品を取り付ける 6

▼ ケーブル管理部品を取り付ける 13

サーバーのケーブル接続 18

▼ サーバーにケーブルを接続する 18

スライドレールおよび CMA の動作の確認 19

▼ スライドレールおよび CMA の動作を確認する 19

3. システムの電源投入 23

システムコントローラの電源投入 23

▼ システムコントローラの電源を入れる 23

システムコントローラのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法 25

システムコントローラへのログイン 25

- ▼ システムコントローラにログインする 26
- ▼ システムコントローラのネットワーク管理ポートを構成する 26
- ▼ システムコントローラをリセットする 28
- ▼ ネットワーク管理ポートを使用してシステムコントローラにログインする 30

サーバーへの電源投入 31

- ▼ システムの電源を入れる 31
- ▼ システムコンソールに接続する 31

Solaris オペレーティングシステムの起動 32

- ▼ Solaris オペレーティングシステムを起動する 32

図目次

図 2-1	スライドレール構成部品のロックの解除	6
図 2-2	固定部品のリリースボタンの位置	7
図 2-3	スライドレールの中央セクションのロックの解除	8
図 2-4	固定部品のシャーシへの取り付け	9
図 2-5	スライドレールの取り付け	10
図 2-6	スライドレールの間隔ツールを使用したスライドレール間の間隔の調整	11
図 2-7	スライドレールへのシャーシの取り付け	12
図 2-8	左のスライドレールの背面側への CMA レール拡張部品の挿入	14
図 2-9	内部 CMA コネクタの取り付け	15
図 2-10	外部 CMA コネクタの取り付け	16
図 2-11	スライドレールの左側の取り付け	17
図 2-12	ケーブルクリップを開く	18
図 2-13	スライドレール構成部品のロックの解除	20
図 2-14	スライドレールレバーストップのロックの解除	21
図 2-15	スライドレールのリリースボタン	22

はじめに

『Sun Fire V215 および V245 サーバー設置マニュアル』では、Sun Fire™ V215 および V245 サーバーの設置に役立つ手順、基本的な情報、および参考資料について説明します。

このマニュアルの手順は、読者が Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) の使用経験があるシステム管理者であることを前提としています。

注 – すべての内部コンポーネントの取り付けは、Sun™ 認定の保守作業員が行う必要があります。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

第 1 章では、設置作業の概要について説明します。

第 2 章では、Sun Fire V215 または V245 サーバーの設置手順について説明します。

第 3 章では、サーバーの電源投入手順およびプリインストールソフトウェアの構成手順について説明します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成などに使用する基本的な UNIX[®] コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris OS のマニュアル

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	<i>machine-name%</i>
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% su Password:
AaBbCc123	コマンド行の変数部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	% grep <code>^\#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

関連マニュアル

特に記載のないかぎり、表に示されているマニュアルは次の URL で参照できます。

<http://www.sun.com/documentation>

タイトル	説明	Part No.
『Sun Fire V215 and V245 Servers Product Notes』	最新情報について説明します。	819-3040
『Sun Fire V215 および V245 サーバのご使用の手引き』	サーバーの概要、設置作業、サイト計画、およびマニュアルについて説明します。	819-6870
『Sun Fire V215 および V245 サーバ管理マニュアル』	Sun Fire V215 および V245 サーバに固有の管理作業の手順について説明します。	819-6888

タイトル	説明	Part No.
『Sun Fire V215 and V245 Servers Service Manual』	サーバーの部品の取り外しおよび交換の手順について説明します。	819-3038
『Sun Fire V215 and V245 Compliance and Safety Manual』	適合に関する宣言およびプラットフォーム固有の安全に関する情報について説明します。	819-3039
『Advanced Lights Out Manager (ALOM) 1.6 Administration Guide』	Advanced Lights Out Manager (ALOM) ソフトウェアの使用手順について説明します。	819-2445

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

Sun 以外の Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Fire V215 および V245 サーバー設置マニュアル』、Part No. 819-6879-10

第1章

設置の準備

この章では、第2章で説明する Sun Fire V215 および V245 サーバーの設置手順に関する基本的な情報について説明します。

この章は、次のセクションで構成されています。

- 1 ページの「必要な工具」
- 1 ページの「出荷キットの内容一覧」
- 2 ページの「設置の概要」
- 4 ページの「安全のための注意事項」

必要な工具

設置作業を完了するには、次の工具が必要です。

- プラスのねじ回し (Phillips の 2 番)
- ESD マットおよびアースストラップ

出荷キットの内容一覧

Sun Fire V215 および V245 サーバーの標準コンポーネントおよびオプションのコンポーネントは、出荷時に取り付けられています。ただし、キーボードまたはモニターを注文した場合、これらは個別に出荷されます。

注 - 出荷用梱包箱を検査して、物理的な損傷がないかどうかを確認してください。出荷用梱包箱に損傷がある場合は、開梱の際に運送業者の立ち会いを要求してください。業者が検査できるように、箱の中身と梱包材はすべて保管しておいてください。

出荷内容に含まれるコンポーネントの一覧を次に示します。

- Sun Fire V215 または V245 サーバーのシャーシ
- スライドレール構成部品
- 印刷版のマニュアルと、各種ラックやキャビネットに適合するさまざまなサイズの取り付けねじおよびナットが含まれているアクセサリキット
- 6つのケーブルクリップが事前に取り付けられているケーブル管理アーム
- ケーブル管理アームのメーカーの手順書

設置の概要

この設置マニュアルで説明する手順は、次の順序で実行してください。

1. 部品がすべてそろっていることを確認します。
2. サーバーの構成情報を収集します。次のパラメータが必要です。
 - ネットマスク
 - システムコントローラの IP アドレス
 - ゲートウェイの IP アドレス
3. サーバーをラックに取り付けます。5 ページの「サーバーのラックへの取り付け」を参照してください。
4. サーバーをシリアル端末または端末エミュレータに接続します。23 ページの「システムコントローラの電源投入」を参照してください。

参考 – システムメッセージを確認できるように、電源ケーブルを接続する前にシリアル端末または端末エミュレータを接続してください。

5. データケーブルをサーバーに接続します。18 ページの「サーバーのケーブル接続」を参照してください。
6. 1本または2本の AC 電源ケーブルをサーバーに接続し、エラーメッセージが表示されるかどうかを確認します。23 ページの「システムコントローラの電源投入」を参照してください。

注意 – サーバーおよび関連機器が適切にアースされていないと、感電する可能性があります。



注 – システムコントローラ (SC) は、3.3 V のスタンバイ電圧で動作します。システムに AC 電源が接続されるとすぐに、システムコントローラの電源が入り、診断が実行され、Sun Advanced Lights Outs Management (ALOM) ファームウェアが初期化されます。

7. システムコントローラの起動後に、シリアル管理ポートを介して ALOM コマンド行インタフェースにアクセスします。26 ページの「システムコントローラにログインする」を参照してください。
8. SC ネットワークアドレスを構成します。26 ページの「システムコントローラのネットワーク管理ポートを構成する」を参照してください。

注 – SC シリアル管理ポートを介してシステムコントローラのネットワーク設定を構成するまで、SC ネットワーク管理ポートは動作しません。

9. システムコントローラをリセットして、新しい構成を有効にします。28 ページの「システムコントローラをリセットする」を参照してください。
10. ALOM ソフトウェアを使用してキーボードからサーバーの電源を入れます。23 ページの「システムコントローラの電源投入」を参照してください。
11. 次に示すプリインストールソフトウェアの Web サイトにアクセスして、構成情報、パッチ、およびアップデートを入手します。
<http://www.sun.com/software/preinstall/>
12. Solaris OS を設定します。32 ページの「Solaris オペレーティングシステムの起動」を参照してください。

Solaris OS は、サーバーにプリインストールされています。サーバーの電源を入れると、自動的に Solaris OS の設定手順に進みます。
13. サーバーに必要なパッチまたは更新をインストールします。
14. (省略可能) Solaris OS メディアキットから追加ソフトウェアをインストールします。

Solaris OS メディアキット (別売) には、サーバーの操作、設定、および管理に役立つソフトウェアが収録された CD が数枚含まれています。収録されているすべてのソフトウェアのリストおよびインストール手順の詳細は、メディアキットに付属のマニュアルを参照してください。

安全のための注意事項

サーバーを設置する前に、次に示す安全のための注意事項を確認してください。

- 取り付け作業を開始する前に、キャビネットまたはラックに転倒防止バーを配置してください。
- サーバーの重量は約 18 kg (40 ポンド) です。この章の手順に従って、システムを持ち上げてラック格納装置に取り付けるには、2 人の作業員が必要です。

第2章

Sun Fire V215 および V245 サーバーの設置

Sun Fire V215 サーバーと Sun Fire V245 サーバーの設置手順はほぼ同じです。そのため、この章では Sun Fire V245 サーバーの設置手順を中心に説明します。設置作業が異なる場合は、各手順でその相違点を示します。

この章は、次のセクションで構成されています。

- 5 ページの「サーバーのラックへの取り付け」
- 18 ページの「サーバーのケーブル接続」

注 - 「左」および「右」という表現は、装置を前面または背面のいずれかから見た場合のユーザーにとっての左および右を指しています。

サーバーのラックへの取り付け

ラックマウントキットには、スライドレール構成部品が 2 つ含まれています。スライドレール構成部品は、ラックの右側または左側のいずれかに取り付けることができます。

スライドレール構成部品は、スライドレールと取り外し可能な固定部品の 2 つの部品で構成されます。スライドレールはラックポストに取り付け、固定部品は Sun Fire V215 および V245 のシャーシに取り付けます。

注 - サーバーの取り付けを開始する前に、ラックマウントキットの部品がすべてそろっていることを確認してください。1 ページの「出荷キットの内容一覧」を参照してください。

▼ スライドレール構成部品を取り付ける

1. 両方の固定部品をそれぞれのスライドレールから完全に引き出します。
 - a. スライドレールロックの上下のロックボタンを同時に押し続けます (図 2-1)。

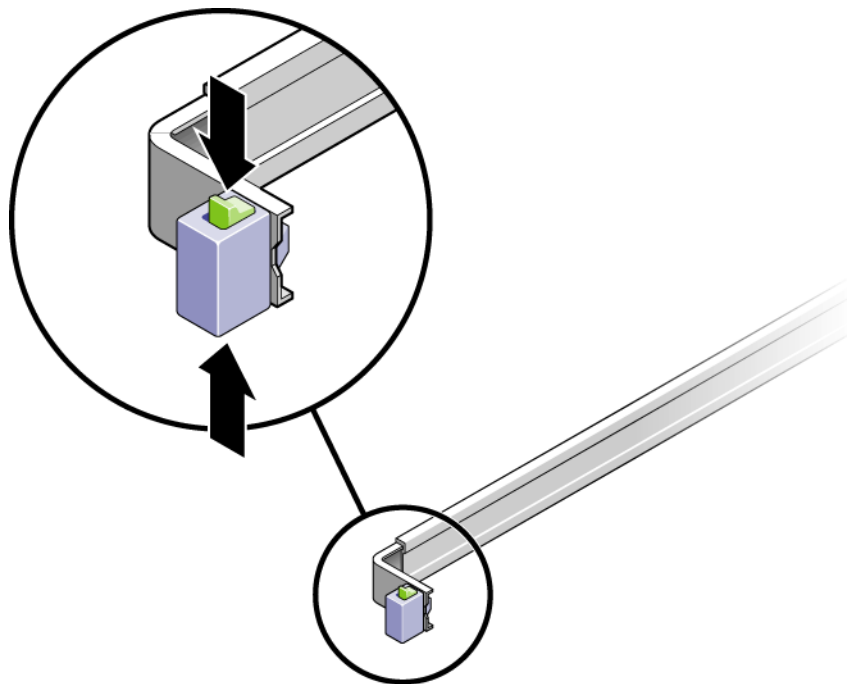


図 2-1 スライドレール構成部品のロックの解除

- b. 伸ばした位置でロックされるまで、固定部品を引き出します。
- c. 固定部品のリリースボタンを図 2-2 で示す方向にスライドさせて、固定部品をスライドレールから引き出します。

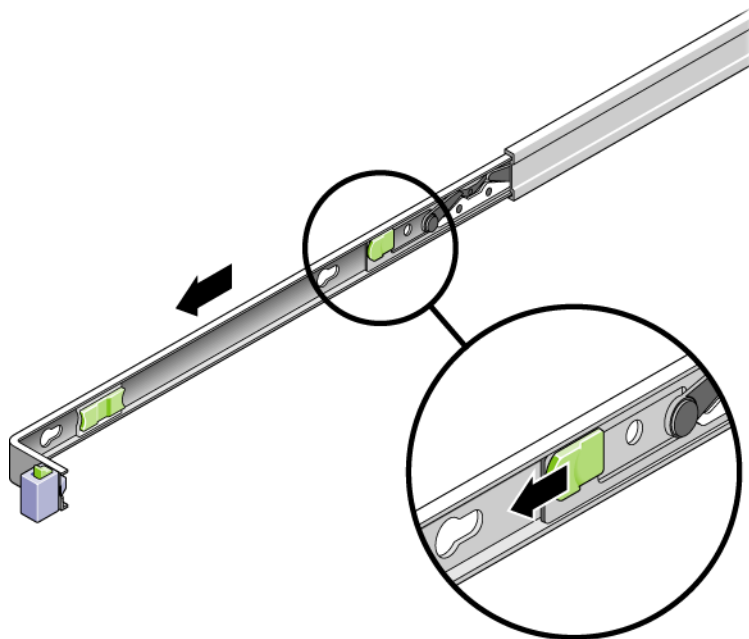


図 2-2 固定部品のリリースボタンの位置

- d. スライドレールの中央セクションにある、Push というラベルが付いた金属製のレバー (図 2-3) を押してから、中央セクションをラックに向かって押し込みます。

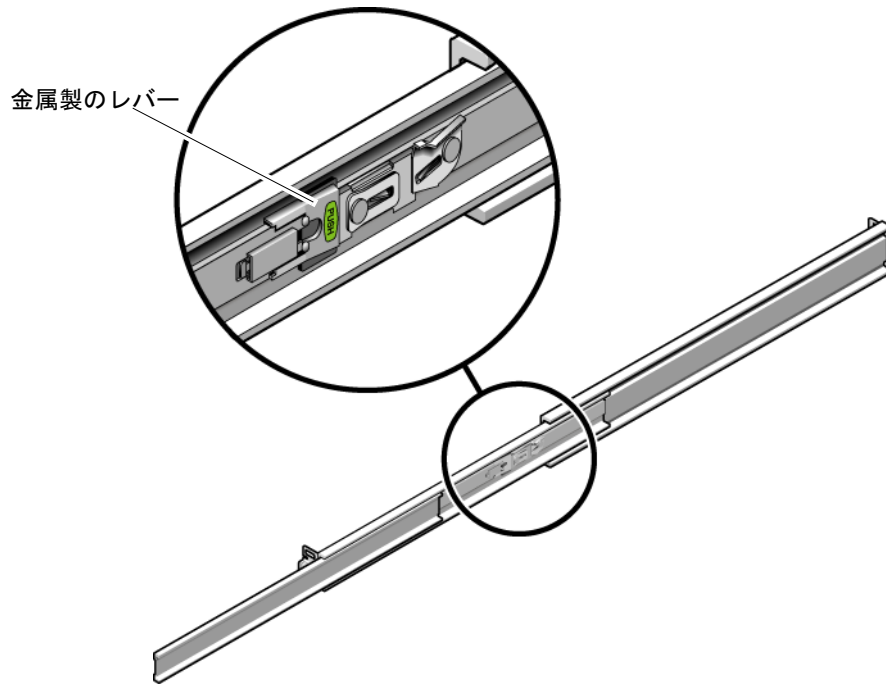


図 2-3 スライドレールの中央セクションのロックの解除

2. シャーシの右側に固定部品を取り付けます。
 - a. スライドレールロックを前面側にして、固定部品の 3 つのはめ込み用の穴とシャーシ側の 3 つの位置決め用のピンの位置を合わせて、サーバーシャーシに固定部品を配置します (図 2-4)。

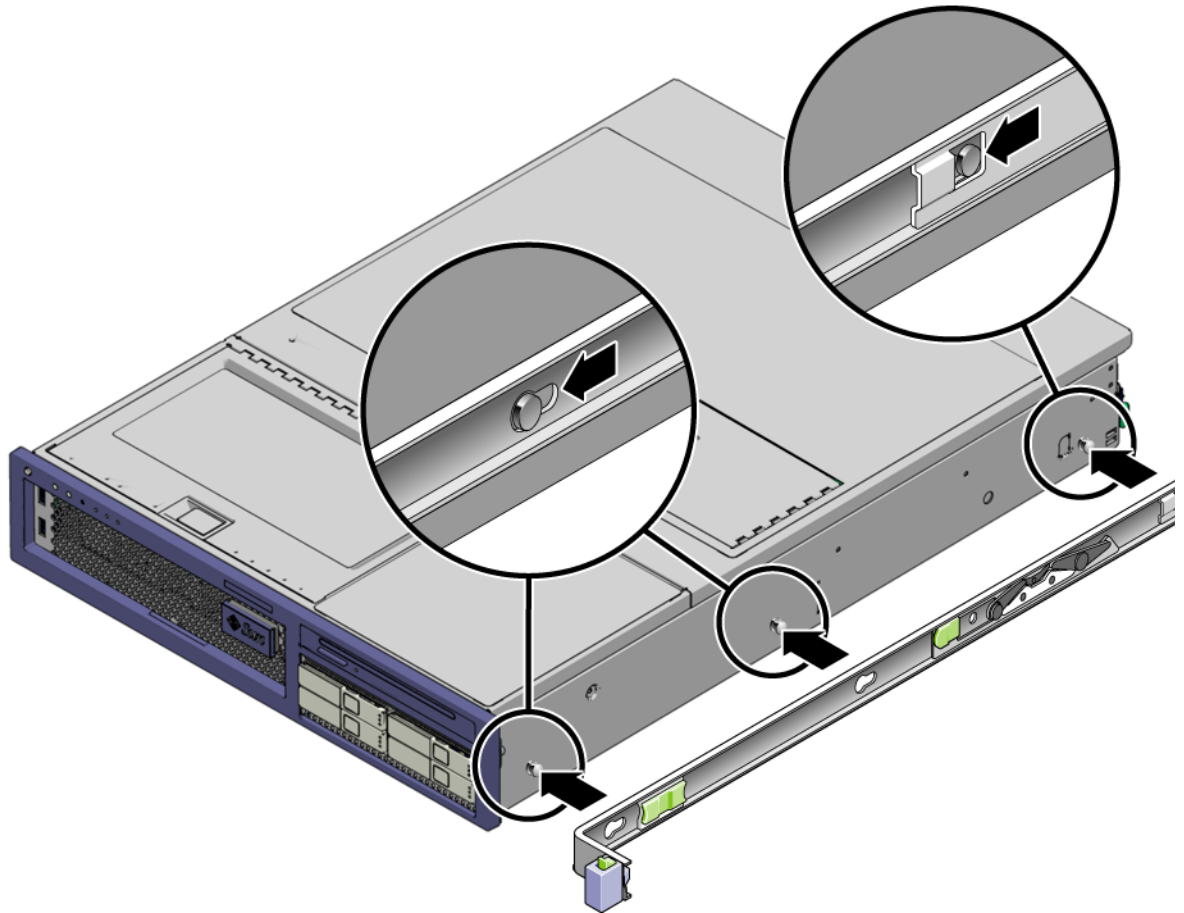


図 2-4 固定部品のシャーシへの取り付け

- b. 固定部品の 3 つのはめ込み用の穴を通して突き出た 3 つの位置決め用のピン先端を使用して、部品がカチッと音を立ててロックされるまで、固定部品をシャーシの前面に向かって引っ張ります。
 - c. 図 2-4 の右側に示されているように、3 つの位置決め用のピンがすべてのはめ込み用の穴に固定され、背面側の位置決め用のピンが固定部品のロックにかみ合っていることを確認します。
3. シャーシの左側に 2 つめの固定部品を取り付けます。
 4. ラックポストにスライドレールを取り付けるときに使用する、ラックのねじ穴の番号を確認します。

Sun Fire V245 サーバーの高さは、2 ラックユニット (2 U) です。スライドレールは、その 2 U スペースの下半分に取り付けることとなります。

Sun Fire V215 サーバーの高さは1 ラックユニットであるため、スライドレールは同じラックユニットに取り付けることになります。

5. スライドレールを取り付けるために使用するねじを確認します。
 - 使用しているラックのラックポストにねじ込み式の取り付け用ねじ穴がある場合は、ねじ山がメトリックか標準かを確認します。マウントキットに含まれているパッケージから適切なねじを選択します。
 - 使用しているラックにねじ込み式の取り付け用ねじ穴がない場合、取り付けねじはケージナットを使用して固定されます。
6. スライドレールを前面右側のラックポストに取り付けます。
 - a. 2本のねじを使用して、スライドレールの正面側を前面右側のラックポストに緩く取り付けます (図 2-5)。

注 - ねじはまだ締め付けしないでください。

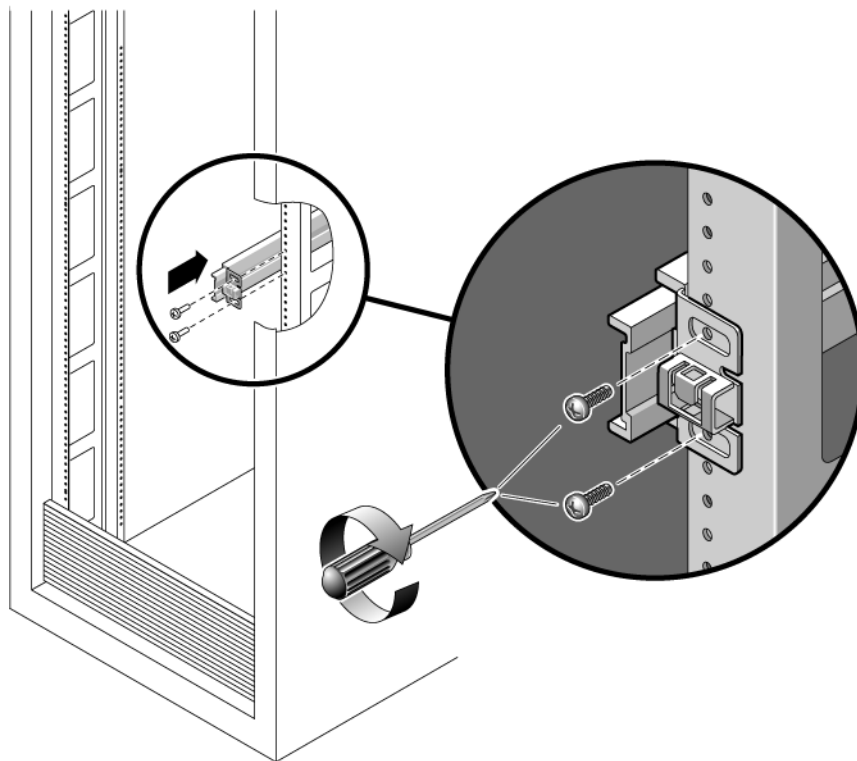


図 2-5 スライドレールの取り付け

- b. 背面側の取り付けフランジを背面のラックポストの外側に届く位置までスライドさせて、スライドレールの長さを調整します。
 - c. 2本のねじを使用して、スライドレールの背面側を背面のラックポストに緩く取り付けます。
7. 同じ方法で、2本めのスライドレールを左のラックポストに取り付けます。
ねじは締め付けないでください。
 8. スライドレールの間隔ツールを使用して、スライドレール間の間隔を調整します。
 - a. ラックの前面で、左のレールの端にツールの左側を差し込みます (図 2-6)。

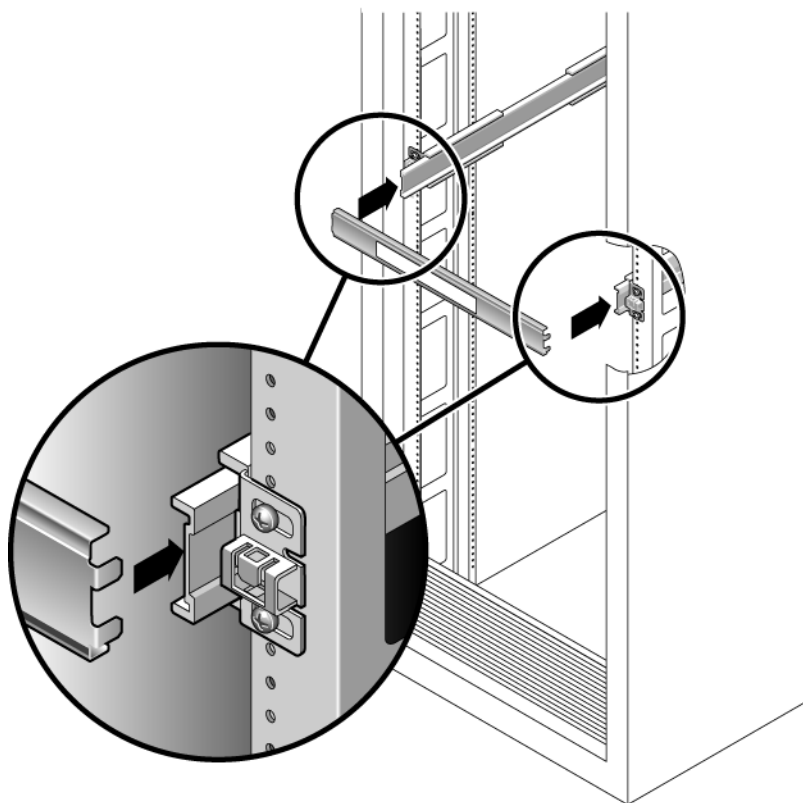


図 2-6 スライドレールの間隔ツールを使用したスライドレール間の間隔の調整

- b. 右のレールの前面側の端にツールの右側を挿入し、必要に応じてレールの端を右または左にスライドさせながら、ツールの端が両方のレールの端に入るようにします。
これで、レール間の間隔が固定部品を取り付けたサーバーの幅と等しくなります。

- c. ねじを締めて、適切な位置でレールの端を固定します。
 - d. ラックの背面で、レールの背面側の端に対して手順 a ~ 手順 c を繰り返します。
9. ラックの準備が整ったら、転倒防止バーを配置します。

注意 - サーバーの重量によって、ラックが転倒する可能性があります。

注意 - サーバーの重量は約 18 kg (40 ポンド) です。システムを持ち上げてラック格納装置に取り付けるには、2 人の作業員が必要です。

10. 固定部品の端をスライドレールに挿入します (図 2-7)。

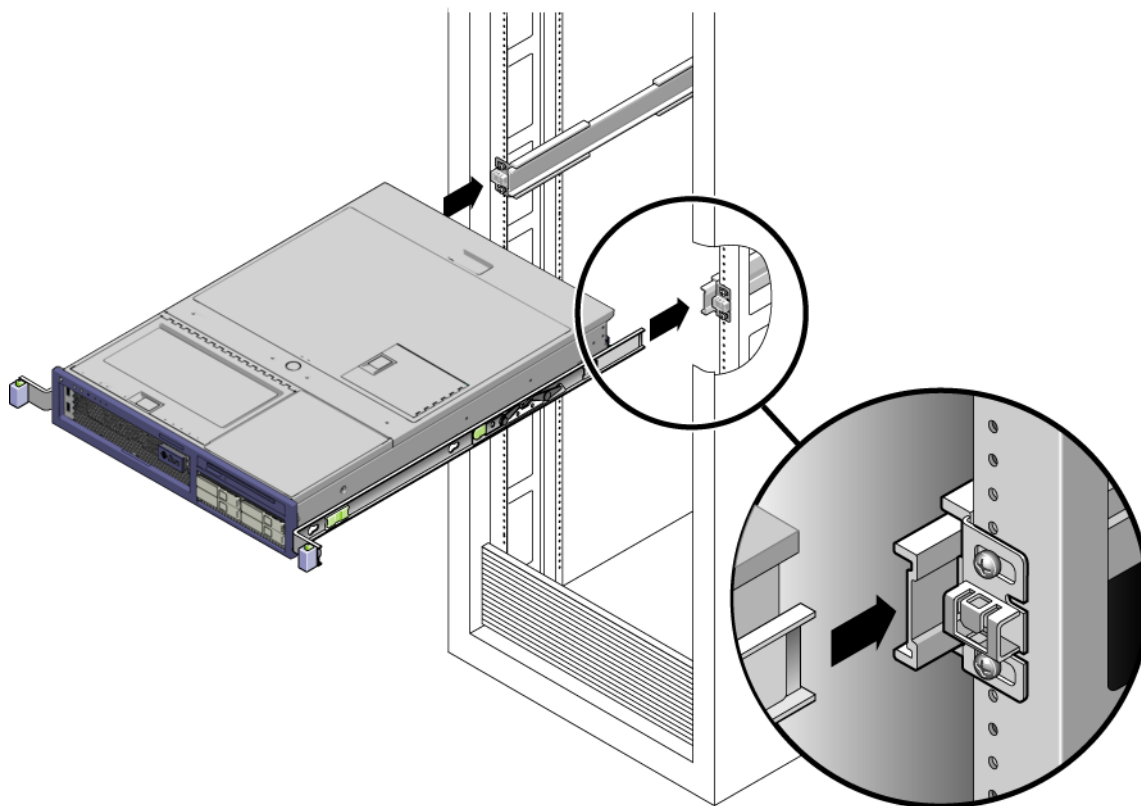


図 2-7 スライドレールへのシャーシの取り付け

11. シャーシをラックにスライドさせて入れます。



注意 – サーバーがラックに安全に取り付けられ、スライドレールが固定部品にロックされていることを確認してください。

▼ ケーブル管理部品を取り付ける

ケーブル管理部品 (CMA) は、左および右のスライドレール構成部品の端に差し込みます。CMA の取り付けには、ねじは必要ありません。



注意 – この取り付け作業中は、CMA を支えておいてください。3 か所の取り付け位置のすべてで CMA が固定されるまで、この部品が重さのためにぶら下がらないようにしてください。

1. ラックの背面で、CMA レール拡張部品を左のスライドレール構成部品の端に差し込みます (図 2-8)。

レール拡張部品の前面側にある爪が、カチッという音を立てて所定の位置にはまりません。

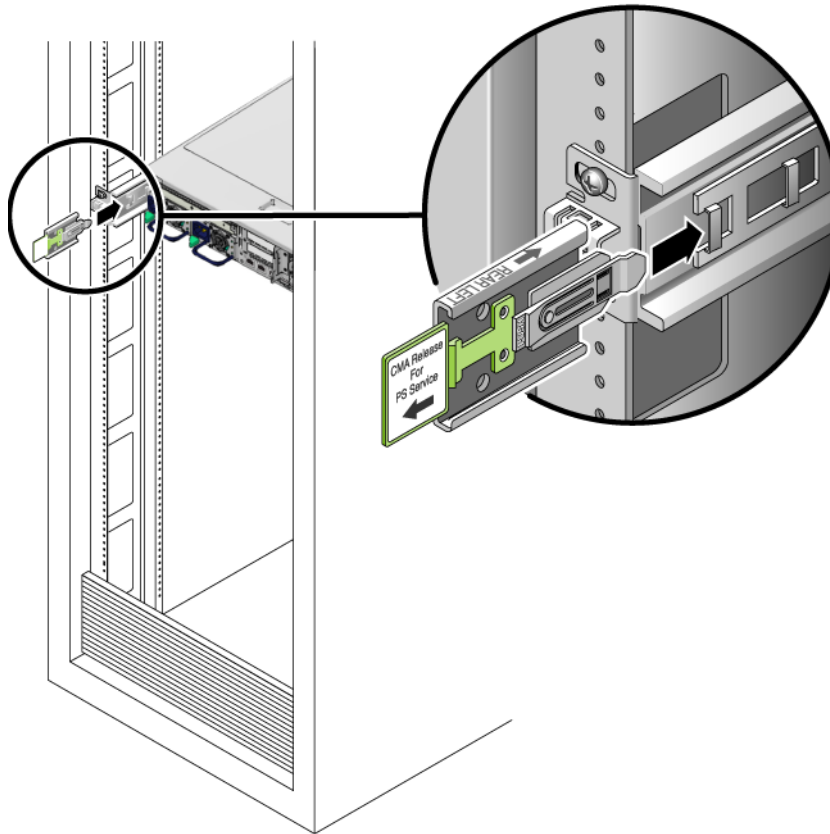


図 2-8 左のスライドレールの背面側への CMA レール拡張部品の挿入

2 つの CMA アームの右側には、ヒンジ付きの拡張部品が付いています。小さい方の拡張部品は、右の固定部品に取り付けます。大きい方の拡張部品は、右のスライドレールに取り付けます。

2. 小さい方の拡張部品を固定部品の端にあるクリップに挿入します (図 2-9)。

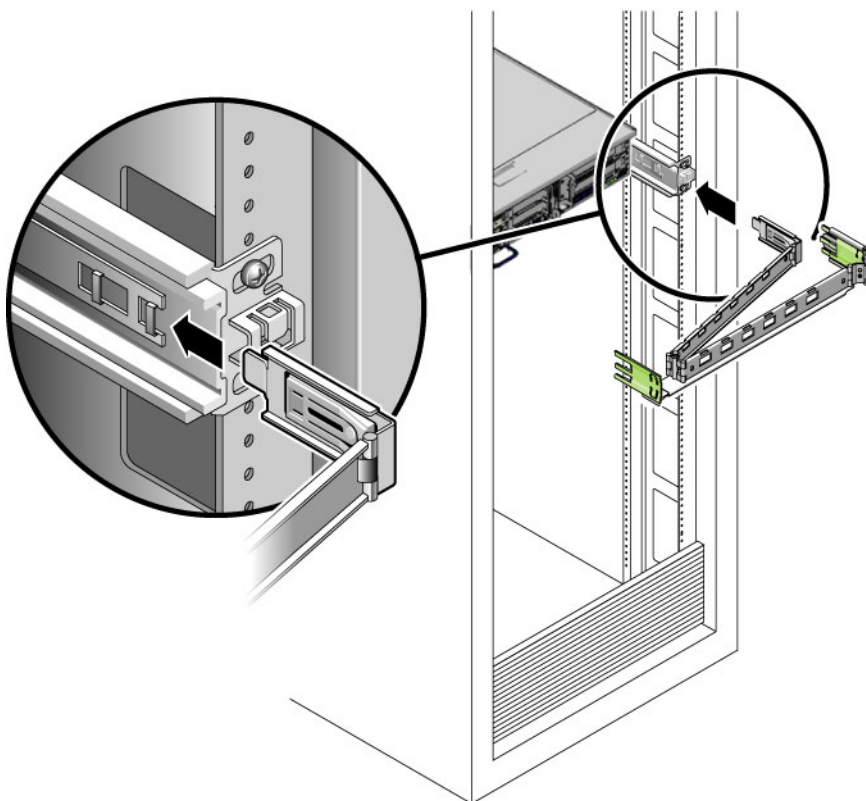


図 2-9 内部 CMA コネクタの取り付け

3. 大きい方の拡張部品を右のスライドレールの端に挿入します (図 2-10)。

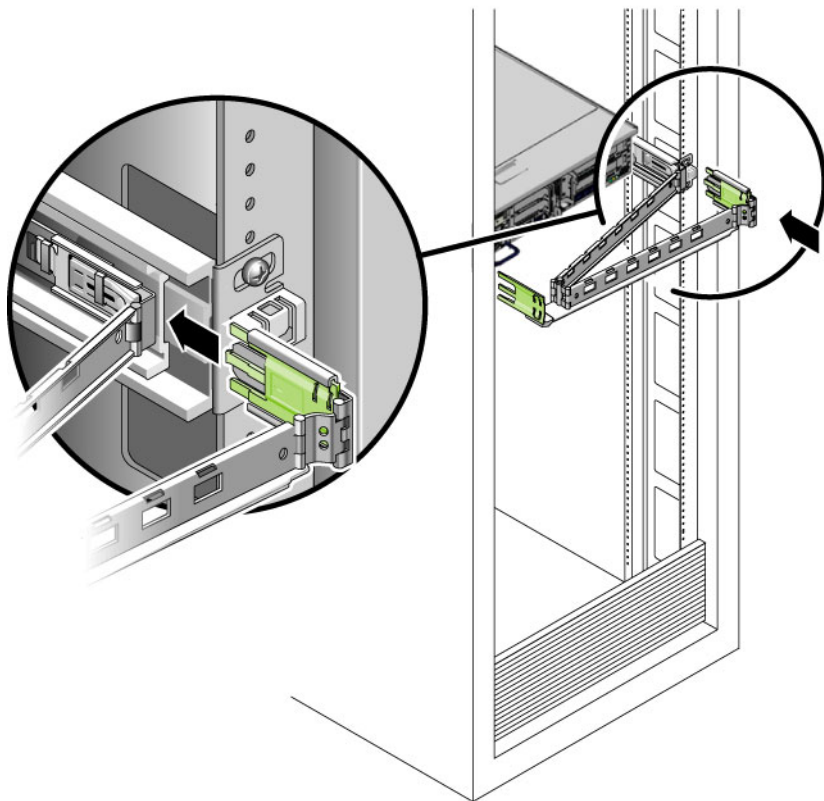


図 2-10 外部 CMA コネクタの取り付け

4. CMA の左側にあるヒンジ付きのプラスチック製のコネクタを、CMA レール拡張部品に完全に挿入します (図 2-11)。

CMA レール拡張部品のプラスチック製の爪によって、ヒンジ付きのプラスチック製のコネクタが適切な位置でロックされます。

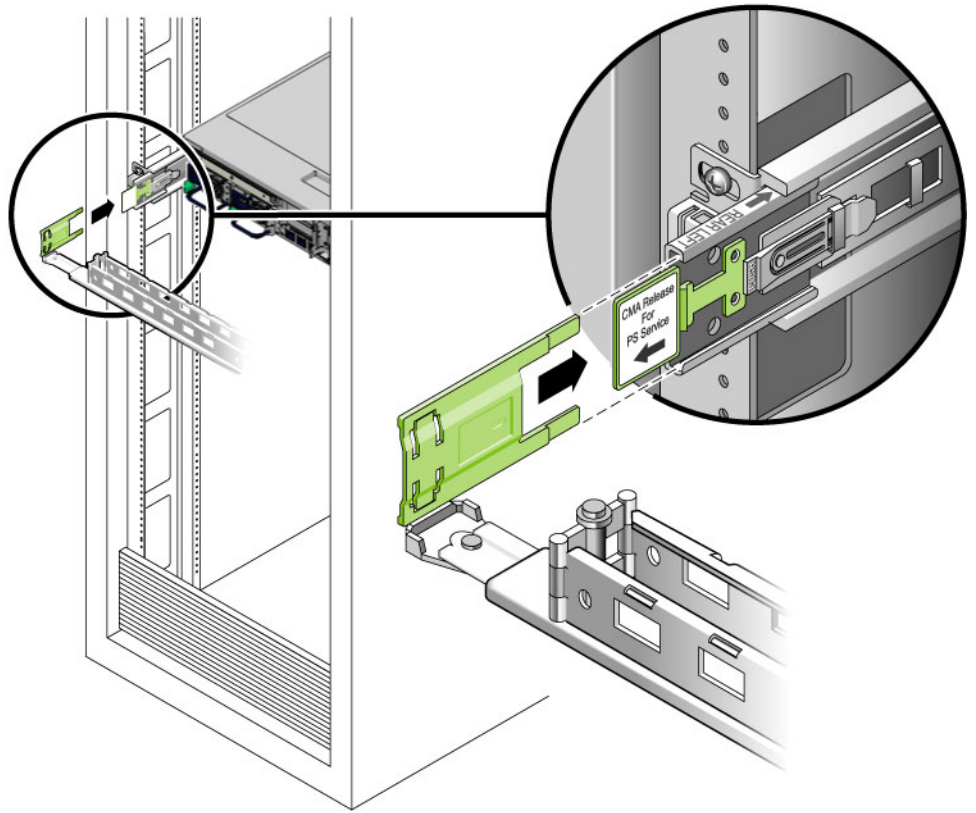


図 2-11 スライドレールの左側の取り付け

サーバーのケーブル接続

サーバーのポートの図については、『Sun Fire V215 および V245 サーバーご使用の手引き』を参照してください。

▼ サーバーにケーブルを接続する

1. ケーブルクリップの前面を押し、ヒンジが付いた先端部を持ち上げて、ケーブルクリップを開きます。

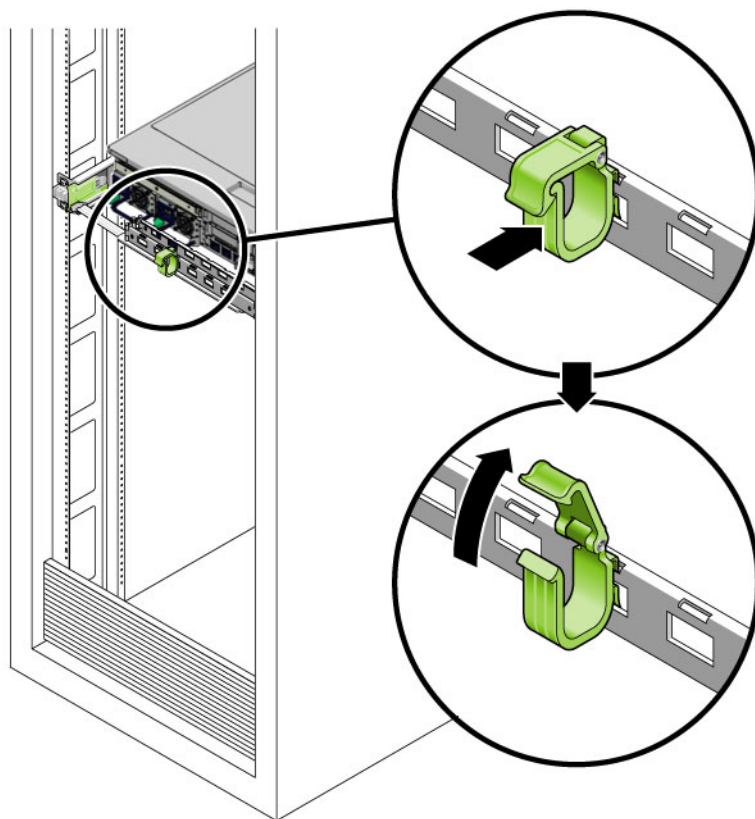


図 2-12 ケーブルクリップを開く

2. カテゴリ 5 ケーブルをネットワークスイッチまたはハブからシャーシの背面にある Ethernet ポート 0 (NET0) に接続します。

3. 必要に応じて、カテゴリ 5 ケーブルをネットワークスイッチまたはハブから残りの Ethernet ポート (NET1、NET2、NET3) に接続します。
4. カテゴリ 5 ケーブルを SC シリアル管理ポートから端末デバイスに接続します。
5. カテゴリ 5 ケーブルをネットワークスイッチまたはハブからネットワーク管理ポート (NET MGT) に接続します。
6. 電源ケーブルをサーバーまで配置します。ただし、ケーブルをサーバーに接続しないでください。
Sun Fire V215 サーバーの電源ケーブルは、1 本のみです。
7. ケーブルをクリップに通してから、クリップの先端部を押してロックします。

スライドレールおよび CMA の動作の確認

サーバーの電源を入れてプリインストールされたソフトウェアを構成する前に、スライドレールおよび CMA が正常に動作することを確認してください。

参考 – この手順を行うには、2 人の作業員が必要です。1 人がサーバーをラックから出し入れし、もう 1 人がケーブルおよび CMA の動作を確認します。

▼ スライドレールおよび CMA の動作を確認する

1. 転倒防止バーを配置します。
2. シャーシの右側および左側のスライドロックボタンのロックを解除して (図 2-13)、スライドレールが止まるまでサーバーをゆっくりとラックから引き出します。

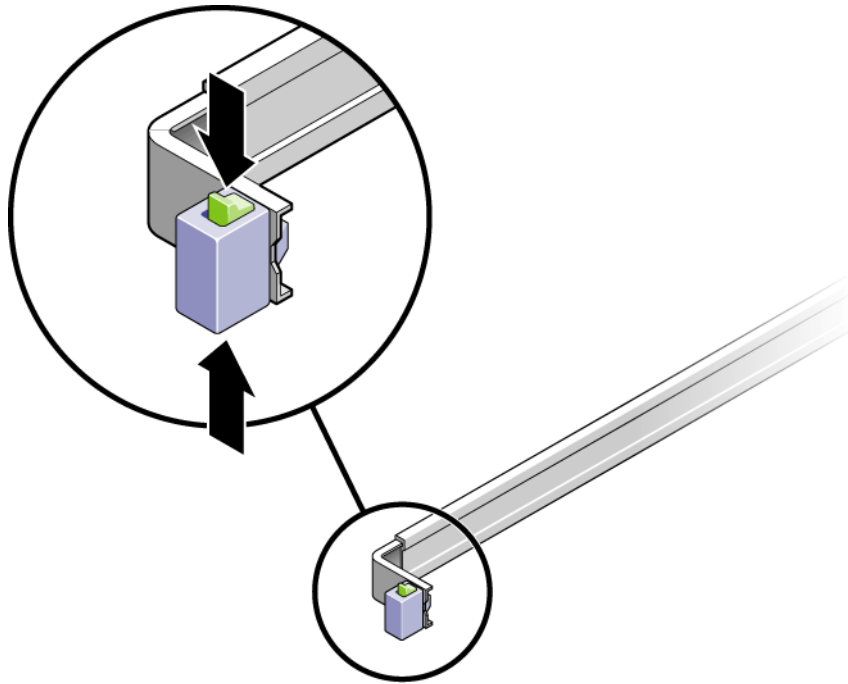


図 2-13 スライドレール構成部品のロックの解除

3. 接続されたケーブルが巻き付いたりねじれたりしていないかを確認します。
4. CMA が完全に伸び、スライドレールに巻き付いたりしないことを確認します。
5. サーバーが完全に引き出されている場合は、スライドレールのレバーストップを離します (図 2-14)。

両方のレバーを同時に押して、サーバーをラック内にスライドさせます。

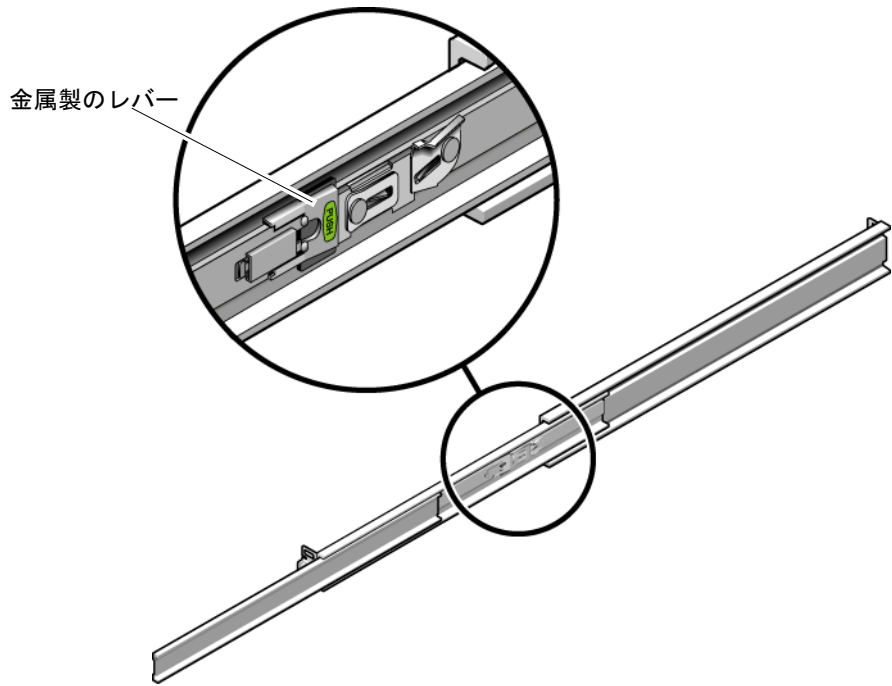


図 2-14 スライドレールレバーストップのロックの解除

6. 両方のスライドレールリリースボタンのロックを同時に解除して (図 2-15)、サーバーをラック内に完全に押し込みます。

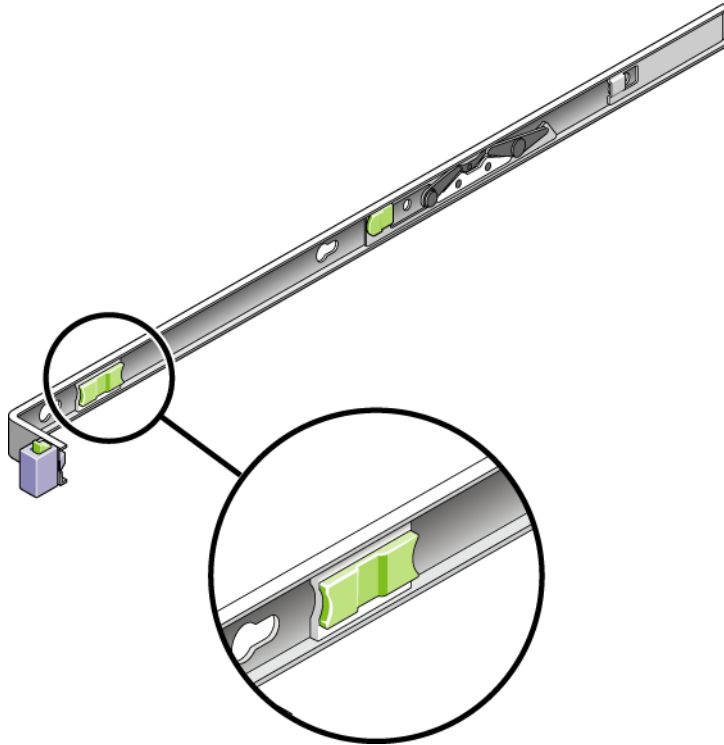


図 2-15 スライドレールのリリースボタン

サーバーは、約 40 cm (15 インチ) 動かしたところで停止します。

7. ケーブルおよび CMA が巻き付かずに格納されていることを確認します。
8. 必要に応じて、ケーブルハンガーおよび CMA を調整します。

第3章

システムの電源投入

この章では、Sun Fire V215 および V245 サーバーを起動し、システムコントローラのネットワーク管理ポートを使用可能にする手順について説明します。

この章は、次のセクションで構成されています。

- 23 ページの「システムコントローラの電源投入」
- 25 ページの「システムコントローラのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法」
- 25 ページの「システムコントローラへのログイン」
- 32 ページの「Solaris オペレーティングシステムの起動」

システムコントローラの電源投入

システムコントローラは、3.3 V のスタンバイ電圧で動作します。システムに AC 電源が接続されるとすぐに、システムコントローラの電源が入り、診断が実行されて、ALOM ファームウェアが初期化されます。

注 - ログインしない場合、ALOM は 60 秒後にタイムアウトしてシステムコンソールに戻ります。詳細は、『Sun Advanced Lights Out Manager Software User's Guide』を参照してください。

▼ システムコントローラの電源を入れる

1. 端末または端末エミュレータを SC シリアル管理ポートに接続します。
2. 端末または端末エミュレータは次の設定で構成します。
 - 9600 ボー

- 8 ビット
- パリティなし
- 1 ストップビット
- ハンドシェイクなし

3. 端末または端末エミュレータをオンにします。

4. AC 電源ケーブル (1 本または複数) を接続します。

5. 端末でシステムメッセージを確認します。

システムコントローラが起動すると、シリアルコンソールにシステムコントローラのログインプロンプトが表示されます。次の例は、ログインプロンプトが表示されるまでの、システムコントローラの起動手順の出力の一部を示しています。

コード例 3-1 システムコントローラの出力例

```
ALOM POST 1.0

Dual Port Memory Test, PASSED.

TTY External - Internal Loopback Test
      TTY External - Internal Loopback Test, PASSED.

TTYC - Internal Loopback Test
      TTYC - Internal Loopback Test, PASSED.

TTYD - Internal Loopback Test
      TTYD - Internal Loopback Test, PASSED.

.....

Full VxDiag Tests - PASSED

      Status summary - Status = 7FFF

      VxDiag   -      - PASSED
      POST    -      - PASSED
      LOOPBACK -      - PASSED

      I2C     -      - PASSED
      EPROM   -      - PASSED
```

コード例 3-1 システムコントローラの実出力例 (続き)

```
FRU PROM - - PASSED

ETHERNET - - PASSED
MAIN CRC - - PASSED
BOOT CRC - - PASSED

TTYD - - PASSED
TTYC - - PASSED
MEMORY - - PASSED
MPC885 - - PASSED

Please login:
```

システムコントローラのネットワーク管理ポートを使用可能にする方法

システムコントローラのネットワーク管理ポートは、システムコントローラのネットワーク設定を構成するまで動作しません。次の手順に従って、システムコントローラを設定します。

1. システムコントローラの起動後に、シリアル管理ポートを介して ALOM コマンド行インタフェースにアクセスします。26 ページの「システムコントローラにログインする」を参照してください。
2. システムコントローラを設定します。26 ページの「システムコントローラのネットワーク管理ポートを構成する」を参照してください。
3. システムコントローラをリセットして、新しい値を有効にします。28 ページの「システムコントローラをリセットする」を参照してください。

システムコントローラへのログイン

はじめてシステムの電源を入れる場合は、システムコントローラのシリアルポートを使用して、サーバーの電源を入れ、POST を実行します。

▼ システムコントローラにログインする

システムコントローラが起動すると、`sc>` プロンプトが表示されます。デフォルトの設定では、`admin` と呼ばれる `ALOM` ユーザーアカウントが提供されています。デフォルトのパスワードが指定されていないため、システムコントローラの `password` コマンドを使用してパスワードを作成する必要があります。

1. `password` コマンドを使用して `admin` のパスワードを設定します。

```
sc> password
password: Changing password for admin
Setting password for admin.
New password: new-password

Re-enter new password: new-password

sc>
```

2. ログイン名として `admin` を入力し、続けてパスワードを入力します。

```
sc>
Please login: admin
Please Enter password: password
      (Return を 2 回押す)

sc>
```

▼ システムコントローラのネットワーク管理ポートを構成する

ネットワークを使用するにはじめてシステムコントローラにアクセスするには、最初に `SC` シリアル管理ポートを使用して `SC` ネットワーク管理ポートを設定する必要があります。

使用しているネットワーク構成の詳細に従って、次のネットワークパラメータを設定します。

- `netsc_ipnetmask` – システムコントローラサブネットのネットマスク
- `netsc_ipaddr` – システムコントローラの IP アドレス
- `netsc_ipgateway` – サブネットのゲートウェイの IP アドレス
- `if_network` – `SC` がネットワーク上に存在するかどうかの指定

これらのパラメータを設定するには、`setsc` コマンドを使用する必要があります。使用法は次のとおりです。

setsc parameter

1. システムコントローラのネットマスクを設定します。

```
sc> setsc netsc_ipnetmask 255.255.255.0
```

この例では、255.255.255.0 を使用してネットマスクを設定します。ご使用のネットワーク環境のサブネットでは、異なるネットマスクが必要になる場合があります。使用している環境にもっとも適したネットマスク番号を使用してください。

2. システムコントローラの IP アドレスを設定します。

```
sc> setsc netsc_ipaddr service-processor-IPaddr
```

3. システムコントローラゲートウェイの IP アドレスを設定します。

```
sc> setsc netsc_ipgateway gateway-IPaddr
```

4. `if_network` パラメータを `true` に設定します。

```
sc> setsc if_network true
```

5. `showsc` コマンドを使用して、パラメータが適切に設定されたことを確認します。

`showsc` コマンドによって、表 3-1 に示されたすべての構成パラメータとその値が表示されます。

表 3-1 構成パラメータの設定の例

パラメータ	値の例
<code>netsc_enetaddr</code>	00:03:ba:81:2d:02
<code>if_network</code> *	true
<code>if_modem</code>	false
<code>if_emailalerts</code>	false
<code>sys_autorestart</code>	xir
<code>sys_xirtimeout</code>	900
<code>netsc_tpelinktest</code>	true
<code>netsc_dhcp</code>	false
<code>netsc_ipaddr</code> *	129.148.40.30

表 3-1 構成パラメータの設定の例 (続き)

パラメータ	値の例
netsec_ipnetmask*	255.255.255.0
netsec_ipgateway*	129.148.40.254
mgt_mailhost	mgt_mailalert
sc_customerinfo	
sc_escapechars	#.
sc_powerondelay	false
sc_powerstatememory	false
sc_clipasswdecho	true
sc_cliprompt	sc
sc_clitimeout	0
sc_clieventlevel	2
sc_backupuserdata	true
sys_eventlevel	2
sys_confighost	wgs40-80
sys_configip	129.148.40.80
ser_baudrate	9600
ser_parity	none
ser_stopbits	1
ser_data	8
netsec_enetaddr	00:03:ba:81:2d:02
sys_hostname	
sys_enetaddr	00:03:ba:81:2c:f9

* これらのパラメータが適切に機能するには、ネットワーク管理ポートに関するネットワーク構成の詳細に従って、これらのパラメータを設定する必要があります。

▼ システムコントローラをリセットする

すべての構成パラメータが設定されたあとで、システムコントローラをリセットして新しい値を有効にする必要があります。

1. `resetsc` コマンドを実行します。

2. システムコントローラをリセットすることを確認するプロンプトが表示されたら、`y`を入力します。

```
sc> resetsc  
Are you sure you want to reset the SC [y/n]? y  
User Requested SC Shutdown
```

注 - `resetsc` コマンドに `-y` フラグを指定すると、確認メッセージを省略できます。

システムコントローラがリセットされ、診断が実行されます。その後、ログインプロンプトに戻ります。

```
ALOM POST 1.0  
  
Dual Port Memory Test, PASSED.  
  
TTY External - Internal Loopback Test  
      TTY External - Internal Loopback Test, PASSED.  
  
TTYC - Internal Loopback Test  
      TTYC - Internal Loopback Test, PASSED.  
  
TTYD - Internal Loopback Test  
      TTYD - Internal Loopback Test, PASSED.  
  
.....  
  
Full VxDiag Tests - PASSED  
  
      Status summary - Status = 7FFF  
  
      VxDiag - - PASSED  
      POST - - PASSED  
      LOOPBACK - - PASSED  
  
      I2C - - PASSED  
      EPROM - - PASSED  
      FRU PROM - - PASSED
```

```
ETHERNET - - PASSED
MAIN CRC - - PASSED
BOOT CRC - - PASSED

TTYD - - PASSED
TTYC - - PASSED
MEMORY - - PASSED
MPC885 - - PASSED
```

Please login:

▼ ネットワーク管理ポートを使用してシステムコントローラにログインする

注 - ネットワーク管理ポートを使用する前に、26 ページの「システムコントローラのネットワーク管理ポートを構成する」を参照して、システムコントローラのパラメータを設定する必要があります。

1. Telnet セッションを開き、ネットワークアドレスを指定してシステムコントローラに接続します。

```
% telnet 129.148.40.30
Trying 129.148.40.30...
Connected to 129.148.40.30.
Escape character is '^]'.
Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Use is subject to license terms.
Sun(tm) Advanced Lights Out Manager 1.0.11 ()
Please login:
```

2. 以前に設定したパスワードを使用して、`admin` でログインします。

```
Please login: admin
Please Enter password: password
sc>
```

サーバーへの電源投入

システムコントローラのネットワーク管理ポートを使用可能にしたら、このセクションの手順に従ってサーバーの電源を入れ、システムコンソールに接続します。

▼ システムの電源を入れる

システムの電源を入れるには、SC コンソールで `poweron` コマンドを使用する必要があります。

- 電源投入シーケンスを開始するには、`poweron` コマンドを実行します。

システムコンソールに `sc>` 警告メッセージが表示されます。これは、システムがリセットされたことを示しています。

```
sc> poweron
SC Alert: Host System has Reset
sc>
```

▼ システムコンソールに接続する

POST、OpenBoot™、および Solaris OS からの出力は、システムコントローラのネットワークコンソールを使用してシステムコンソールに表示されます。

- `console` コマンドを実行し、`-f` オプションを使用して、使用しているセッションにコンソールを強制的に接続します。

コンソールには複数のユーザーが接続できますが、1人のユーザーのみがセッションに参加することができます。

```
sc> console -f
Enter #. to return to ALOM.
```

Solaris オペレーティングシステムの起動

システムコンソールに接続したら、Solaris OS を起動できます。Solaris OS は、スロット 0 のディスクで Sun Fire V215 および V245 サーバーにプリインストールされています。Solaris OS は構成されていません。つまり、出荷時に `sys-unconfig` コマンドが実行されています。このディスクからシステムを起動すると、使用している環境に合わせて Solaris OS を構成するように求めるプロンプトが表示されます。

▼ Solaris オペレーティングシステムを起動する

1. `ok` プロンプトで、Solaris OS を含むディスクから起動します。
 - 起動のディスクがわかっている場合は、手順 `n` をスキップして手順 2 を実行します。
 - 起動元のディスクを判定する必要がある場合は、`ok` プロンプトで `show-disks` コマンドを実行して、構成されているディスクのパスを確認します。

```
ok show-disks
a) /pci@7c0/pci@0/pci@2/pci@0,2/LSILogic,sas@4/disk
q) NO SELECTION
Enter Selection, q to quit: q
ok
```

2. `ok` プロンプトで `boot` コマンドを入力します。

手順 1 の値を使用して、`boot` コマンドを作成します。ディスクパスにターゲットを追加してください。次の例では、システムがディスク 0 (ゼロ) から起動されるため、ディスクパスに `@0,0` が追加されています。

```
ok boot /pci@7c0/pci@0/pci@2/pci@0,2/LSILogic,sas@4/disk@0,0
```

これで、Solaris OS が起動するはずです。

3. 設置の準備中に収集した構成情報を使用して、プリインストールソフトウェアの Web サイトに掲載されている手順を実行します。
4. 必要に応じて、必要なパッチおよびアップデートをインストールします。

5. オプションのソフトウェアがある場合は、この時点でインストールします。

オプションのソフトウェアを購入した場合は、ソフトウェアに付属の手順書に従ってここでインストールしてください。オプションのソフトウェアを購入していない場合は、この時点でサーバーの設置は完了です。

